

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

第3学年 算数科学習指導案

R2年度 那覇市様式

令和2年10月5日（月）5校時 13:30～14:15
（ 研究小 ）学校 3年 1組 33名
指導者 研究 太郎 ㊦

年間指導計画 （ 3 ）学年 （ 10 ）月計画 P （ ）

1 単元の概要

単元名	あまりのあるわり算
内容のまとめり	第3学年「A 数と計算」（4）「除法」
単元の目標	（1）割り切れない場合の除法の意味や余りについて計算が確実にできる。 （2）割り切れない場合の除法の計算の意味や計算活に活かしたりすることができる。 （3）割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について理解している。 ② 除数と商が共に一位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合にあまりを出すことや、あまりは除数より小さいことを理解している。 文末「～（理解）している」 「～（することが）できる」	① 除法が用いられる場合の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 文末「～している」 「～することができる」	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具合物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。（「わり算探し」など） 文末「～（しようと）している」

3 単元について

（1）児童（生徒）観

レディネステストの結果などから、今までの学習で身に付いている資質や能力、不十分な点について記述する。
・単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記述する。
・どこでどのようなつまずき（課題）があるかを分析し、指導観に記載する手立てと連動する。

（2）教材観

単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記述する。
・学習指導要領との関連を示す。
・単元（題材）の学習内容と、そのねらいを記述する。
・適切な単元の構成内容であることを記述する。

（3）指導観

ねらい達成に向けて、どこで、どのような手立てをするのか、指導のポイントを記述する。
・（1）（2）の記述を踏まえ、子どもの不十分な点を補う手立てを具体的に記述する。
・目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するのかを記述する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

4 単元の指導計画（全 10 時間）

小単元	時	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価規準と評価方法
1 あまりのあるわり算	1	余りがあるわり算のよいことや、物や図などを用いて表現しようとしている。 各時の学習内容とみとる観点を記載する。【知・技】、【思・判・表】、【主体的態度】 《形成的評価》＝《形》、「～確認する。」または《総括的评价》＝《総》、「～記録する。」のどちらかを計画し記載する。		【思・判・表】①《形》 行動観察、ノート分析 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しているか確認する。
	2	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。		【知・技】①《形》 ノート分析
	3	余りと除（例） ・ノート分析 ・ノート観察 ・ノート ・行動観察 ・小テスト 等 各時の観点をみとる方法を記載する。（評価材料）		【知・技】③《形》 ノート分析
	4 【本時】	・等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるか考える。 ・等分除の場面で、答えの（評価材料で）何をどのようにみとるのかを具体的に【B】基準として記載する。5（3）本時の展開の中には、【B】基準に満たない【C】の想定をしてどのような指導をするのか手立てを記載する。		【思・判・表】①《総》 行動観察、ノート分析 等分除の場面でも割り切れない場合の除法が適用できることを、ブロックや図を用いて表現しているか記録する。
	5	割り切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。		【知・技】②《形》 ノート分析
2 あまりの見方	6	日常生活の場面に当てはめるときに、商と余りをどのように解釈すれば良いかを考える。		【主体的態度】①《総》 ノート分析
	7	商を＋1する場合やしない場合について、それぞれ考える。		【思・判・表】②《形》 行動観察、ノート分析
たしかめ問題	8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）		【知・技】①②③《形》 ノート分析
評価テスト	9	学習内容の定着を確認する。 【知・技】の評価として、単元末テストになじみやすさがあるが、テストのみで評価するのではなく、毎時間の机間指導などにおいて児童生徒の学習状況を把握（確認）し、評価の妥当性を確保することが望ましい。（例）第2,3,5,8時		【知・技】①②③《総》 ペーパーテスト 【思・判・表】②《総》 ノート分析
	10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決しあったりする。		【主体的態度】②《総》 ノート分析

小単元については、教科によって『〇次』や「1 〇〇」と表し方が違います。指導計画作成の際には、確認の上、記載する。

児童生徒の課題を踏まえ、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して」、指導事項を明確にした単元づくりをする。
また、各場面で言語活動を充実させ、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるよう工夫する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

5 本時の学習指導について

(1) 本時の目標
等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用
ことができる。

(2) 授業仮説
「○○○において、
場・内容の限定
○○○すれば、
投入条件
方法・手だて
○○○になるであろう。」
身に付けさせたい力(資質・能力)
ねらい・めざす子ども

本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や
方法を提案しようとしているのか、学習指導要領
を踏まえて簡潔にまとめる。

(3) 本時の展開 (第4時)

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学 習 活 動	指導上の留意点 ○教師の手立て □予想される児童 (生徒) の反応	評価項目(方法)
導 入 （ ） 分	1 具体的な学習活動につ いて、児童生徒の立場 から記述する。	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 ・本時の目標を確認し、児童生徒に学習の見通しを もたせるような、「めあて」を児童生徒向けの言葉 で提示する。 ・児童生徒の学習意欲を促すような資料、問題提示の 工夫する。	単元の評価規準 を具体化し、 本時において 1～2観点を 評価する。
展 開 （ ） 分	めあて		どの観点で どのような方法 で評価するのか を記載する。
	2	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。	
	3 (1) 「授業仮説」につながる 学習活動は分かりやすく 表記する。(例：太字ゴ シック体等)	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 ・予想される児童生徒の反応と、それに対応した教師 の手立てを順序立てて記述する。 ・自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・ペアやグループ、全体でかかわり合い、学び合う活 動を取り入れる。 ・努力を要する児童生徒のつまずきとそれに対応した 教師の手立てを書く。	【思・判・表】①《総》 行動観察、ノート分析 〈概ね満足〉 等分除の場面でも 割り切れない場合 の除法が適用でき ることを、ブロッ クや図を用いて表 現している。
	(2)	〔努力を要する児童生徒への手立て〕 ・ブロックを操作して、「はじめの数」や「一人分」の数との 関係を捉えさせる。 ・互いの考えを交流させる場面では、納得した解決方法をノ ートに記述させる。	
	(3)		
ま と め （ ） 分	4	まとめ	
	5	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 ・「めあて」と正対した「まとめ」について記述す る。今日の授業で「何を学んだか」を明確に する。児童生徒の言葉を生かしてまとめる。 ・本時の学習で分かったことやできるようになった こと、次の課題などについて、児童生徒に振り 返らせる。	

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

(4) 板書計画 (写真も可・項目だけでなく、実際に板書することを書く・ICT 機器の活用について)